

$\mathcal{P}(\omega)/\text{finite}$ 上の limits

阪府大総 加茂靜夫 (Shizuo Kamo)

$\mathcal{P}(\omega)$ 上の quasi-order \leq^* を、 $x \leq^* y$ となるのは $x \setminus y$ が finite のとき、で定める。 $x <^* y$ は、 $x \leq^* y$ かつ not $y \leq^* x$ を意味する。 quasi-order \leq^* による $\mathcal{P}(\omega)$ 上の同値関係を \sim で表す。 ω の部分集合からなる κ -sequence $X = \langle x_\alpha | \alpha < \kappa \rangle$ が、 κ -limit であるとは、 X が " κ -下降列" あり、任意の ω の無限部分集合 y に対して、 $\exists \alpha < \kappa$ (not $y <^* x_\alpha$) が成り立つこととする。定義からすぐわかるように、適当な cardinal κ について、 κ -limit が存在する。そこで、連續体仮説の下で、 ω_1 は、 limit が存在する唯一の cardinal となる。更に、連續体の濃度が ω_2 ($2^\omega = \omega_2$) の場合には、次の (A) ~ (C) の可能性が考えられる。

(A) $\exists \omega_1\text{-limit} + \neg \exists \omega_2\text{-limit}$. (B) $\neg \exists \omega_1\text{-limit} + \exists \omega_2\text{-limit}$. (C) $\exists \omega_1\text{-limit} + \exists \omega_2\text{-limit}$.

(A) ~ (C) のそれぞれが $2^\omega = \omega_2$ と整合することは、よく知られている。まず、(A) をみたす model は、連續体仮説の成り立つ universe に対して、

ω_2 個の Cohen real を加える generic extension により得られる。又、(B) は マルティンの公理と $2^{\omega} = \omega_2$ から導かれる。更に、(B) の model に ω_1 個の Cohen real を加える generic extension による model では (C) が成り立つ。では、連續体の濃度 ($= 2^{\omega}$) が大きい場合はどうなるか。この論文ではそれについて考えるが、 $\exists k\text{-limit}$ なら、 $\exists cfk\text{-limit}$ が成り立つから、regular cardinal の limit に制限して考察を行う。そして、次の結果を証明する。

定理（一般連續体仮説） n を自然数とし、 k_0, \dots, k_n と λ は regular cardinal で $\omega_1 \leq k_0 < \dots < k_n \leq \lambda$ をみたすとする。このとき、poset P で、次の (i) から (iv) をみたすものが存在する。

- (i) P は countable chain condition をみたす、
- (ii) $\Vdash_P "2^{\omega} = \check{\lambda}"$,
- (iii) $m = 0, 1, \dots, n$ に対して、 $\Vdash_P "\exists k_m\text{-limit}"$ となる、
- (iv) θ が k_0, \dots, k_n 以外の regular cardinal なら、 $\Vdash_P "\neg \exists \theta\text{-limit}"$ となる。

以下、この定理の証明のため、一般連續体仮説を仮定し、
 $k_0, \dots, k_n, \lambda : \text{regular cardinals} \quad \& \quad \omega_1 \leq k_0 < \dots < k_n \leq \lambda$
 とする。 $k = k_n, \bar{k} = k_0$ と記す。

« poset P の構成 » $T_{\xi} (\xi < k)$ による k -stage finite support iteration $S_{\xi} (\xi < k)$ を ξ に関する induction で次の様に

定める。ここで各 $\xi < \kappa$ に対して, $G|\xi$ は V -generic on S_ξ を,
 G_ξ は $V[G|\xi]$ -generic on T_ξ を表す。

1). $\xi = 0$ のとき。

$$T_0 = 2^{<\omega} (= \{ \tau ; \exists k < \omega (\tau : k \rightarrow 2) \}),$$

$$a_0 = b_0 = \{ k < \omega ; \exists \tau \in G_0 (\tau(k) = 1) \}$$

とする。

2). $\xi = \eta + 1$ のとき。

$$T_\xi = 2^{<\omega},$$

$$b_\xi = \{ k < \omega ; \exists \tau \in G_\xi (\tau(k) = 1) \},$$

$$a_\xi = a_\eta \cap b_\xi$$

とする。

3) ξ が limit のとき。

$$T_\xi = (\mathcal{P}_{<\omega}(\omega) \times \mathcal{P}_{<\omega}(\xi), \leq),$$

(ただし, T_ξ の order は,

$$(u, x) \leq (v, y) \Leftrightarrow u \supset v \text{ & } x \supset y \text{ & } u \setminus v \subset \bigcap_{\eta \leq y} a_\eta$$

$$a_\xi = b_\xi = \bigcup \{ u ; \exists x ((u, x) \in G_\xi) \}$$

とする。

$S_\xi (\xi \leq \kappa)$ は, 定理の (iii) を成り立たせるための poset である。

次の補題 1 ～ 2 が成り立つ。

補題 1. $\xi < \eta < \kappa$ とすると,

$$\mathbb{H}_{\eta+1} " a_\eta \not\perp \phi \text{ & } a_\eta <^* a_\xi "$$

である。

補題2. $\forall \alpha \leq \bar{\kappa} (\alpha \geq \omega_1, \text{regular} \Rightarrow H_\alpha \cdot <\alpha, \beta < \alpha> : \alpha\text{-limit})$

補題3. S_k は countable chain condition をみたす。更に、

$\forall W \subset S_k (|W| = \omega_1 \Rightarrow \exists W_1 \subset W (|W_1| = \omega_1 \& W_1 : \text{pairwise compatible}))$ が成り立つ。

補題2より、poset \bar{P} を、

$$\bar{P} = S_{k_0} \times \cdots \times S_{k_n} \times \{f : \exists x \subset \lambda (|x| < \omega \& f : x \rightarrow 2)\}$$

で定めれば、 \bar{P} は定理の(i)~(iii)をみたす。そこで、以下、 \bar{P} を拡張して、(i)~(iv)をみたす poset P をつくる。

directed set $I = (I, \leq)$ を、

$$I = k_0 \times \cdots \times k_n \times P_{\leq k}(\lambda)$$

$$(\xi_0, \dots, \xi_n, A) \leq (\eta_0, \dots, \eta_n, B) \Leftrightarrow \xi_0 \leq \eta_0 \& \dots \& \xi_n \leq \eta_n \& A \subset B$$

で定める。

$X \subset P(\omega)$ が strong finite intersection property (sfip) を持つとき、poset $R_X = (P_{\leq \omega}(\omega) \times P_{\leq \omega}(X), \leq)$ を、

$$(u, x) \leq (v, y) \Leftrightarrow u \supset v \& x \supset y \& u \setminus v \subset \cap y$$

で定める。 R_X は strong countable chain condition をみたす poset であり、 G を V -generic on R_X とし、 $a = \bigcup \{u ; \exists x ((u, x) \in G)\}$ とおくと、 $a \subset \omega$ & $a \neq \emptyset$ & $\forall x \in X (a \leq^* x)$ が成り立つ。

各 $\bar{l} = (\xi_0, \dots, \xi_n, A) \in I$ に対して、 $Q_\alpha(i)$ ($\alpha < \bar{\kappa}$) による $\bar{\kappa}$ -stage finite support iteration $P_\alpha(i)$ ($\alpha \leq \bar{\kappa}$) を次の induction により

定める。ここで、各 $\alpha < \bar{\kappa}$ に対して、 $G|\alpha$ は V -generic on $P_\alpha(i)$ を表わす。ます、

$$Q_\alpha(i) = S_{\xi_0} \times \cdots \times S_{\xi_n} \times \{ f; \exists \chi \in A (|\chi| < \omega \& f: \chi \rightarrow 2) \}$$

とし、 $0 < \alpha < \bar{\kappa}$ に対して、 $V[G|\alpha]$ において、

$Q_\alpha(i) = \text{the finite product of } \langle R_x \mid x \in \Gamma_\alpha(i) \rangle,$

(ただし、 $\Gamma_\alpha(i) = \{ X \subset \wp(\omega); |X| < \kappa \& X \text{ は sfip を持つ} \})$

とする。 $P(i) = P_{\bar{\kappa}}(i)$ とおく。

各 stage α で $Q_\alpha(i)$ が countable chain condition をみたすから、 $P(i)$ が countable chain condition をみたす。又、 $i \leq j$ のとき、 $Q_\alpha(i)$ が $Q_\alpha(j)$ の complete な subposet になることと、 $Q_\alpha(i), Q_\alpha(j)$ ($0 < \alpha < \bar{\kappa}$) の定め方から、 $P(i)$ は $P(j)$ の complete な subposet になる。そこで、poset P を、

$$P = \bigcup_{i \in I} P(i)$$

で定める。 P が定理で求める poset となることをみていく。

« P は countable chain condition をみたすこと »

I が σ -closed な directed set であることと、 $P(i)$ ($i \in I$) が countable chain condition をみたすことから、容易に導かれる。

« $\Vdash_P "z^\omega = \dot{x}"$ となること »

まず、 $|P| \leq \sum_{i \in I} |P(i)| \leq \kappa \cdot |I| = \lambda$ だから、

$$\Vdash_P "z^\omega \leq \dot{x}"$$

である。

便宜のため、各 $p \in P$ に対して、 $p(o) = (s_0^P, \dots, s_n^P, f^P)$ と記す。

今、 $Q = \{ p \in P ; \text{supp}(p) = \{o\} \& \forall m \leq n (s_m^P = \emptyset) \}$ とおくと、

$Q \cong \text{id}_f ; \exists x \in \lambda (|x| < \omega \& f: x \rightarrow 2) \rightarrow$ となるから、

\Vdash_Q " λ 個の Cohen real over V' が存在する"

が成り立つ。ここと、 Q が P の complete subposet であることより、

\Vdash_P " λ 個の Cohen real over V' が存在する"

が成り立つ。そこで、 \Vdash_P " $2^\omega \geq \lambda$ " である。

« $\forall m \leq n (\Vdash_P \exists k_m^\text{-limit})$ について »

P が countable chain condition をみたすことと、 \mathbb{I} が σ -closed により次の補題が成り立つ。

補題4. x を P -name とし、 $\Vdash_P x < \omega$ とすると、適当な $i \in I$ と $P(i)$ -name \bar{x} で $\Vdash_P x = \bar{x}$ となるものがある。

$\forall m \leq n (\Vdash_P \exists k_m^\text{-limit})$ を示すため、

$m \leq n \& G : V\text{-generic on } P$

とする。 $H = \{ A_m^P ; p \in G \rightarrow C_{k_m} \}$ とおく。このとき、
 H は V -generic on S_{k_m} となるから、 $S_\beta (\beta \leq k_m)$ と同時に定めた names $a_\beta, b_\beta (\beta < k_m)$ の解釈がある。それ等を、 $a_\beta^H, b_\beta^H (\beta < k_m)$ とする。 $X = \langle a_\beta^H | \beta < k_m \rangle$ とおく。 X が、
 $V[G]$ において, k_m -limit となることを示すが、まず、補題1
より、 X は 長さ k_m の $<^*$ -下降列である。そこで、

$V[G] \models \forall y < \omega (\neg y \rightarrow \exists \beta < k_m (\text{not } y <^* a_\beta^H))$

を示せばよい。それを示すため、 $y \in V[G]$ を、 $y \subset w$ & $y \neq w$ となる set とする。補題4により、

$$y \in V[G \cap P(i)]$$

となる $\bar{i} = (\xi_0, \dots, \xi_n, A) \in I$ が存在する。 $\delta = k_m + 1$ とおく。

このとき、 b_δ^H は Cohen real over $V[G \cap P(i)]$ となるから、

$$y \setminus b_\delta^H \neq \emptyset$$

である。これと、 $a_\delta^H \subset b_\delta^H$ より、 $y \setminus a_\delta^H \neq \emptyset$ 。

$$\therefore \text{not } y \leq^* a_\delta^H$$

$\ll \forall \theta: \text{regular} \ (\forall m \leq n (\theta \neq k_m) \Rightarrow \Vdash_P " \exists \delta \text{-limit}") \gg$

背理法で示すため、

(1) $\theta = \text{regular} \ \& \ \forall m \leq n (\theta \neq k_m)$

(2) $\Vdash_P " \langle y_\delta | \delta < \theta \rangle: \theta\text{-limit}"$

とする。各 $\delta < \theta$ に対して、 $\bar{i}_\delta = (\xi_0^\delta, \dots, \xi_n^\delta, A^\delta) \in I$ と $\alpha_\delta < K$ を、 y_δ が $P_{\alpha_\delta}(\bar{i}_\delta)$ -name となるようにとておく。このとき、

(1) により、 $(\xi_0, \dots, \xi_n) \in k_0 \times \dots \times k_n$, $\alpha < K$ で

$D = \{ \delta < \theta ; \xi_0^\delta \leq \xi_0 \ \& \ \dots \ \& \ \xi_n^\delta \leq \xi_n \ \& \ y_\delta: P_\alpha(\bar{i}_\delta)\text{-name} \}$ が cofinal in θ となるものがとれる。

Case 1. $\theta < K$ のとき。

$A = \bigcup_{\delta \in D} A^\delta$ とおく。 $|A| \leq \sum_{\delta \in D} |A^\delta| < K$ となる。そこで、 $\bar{i} = (\xi_0, \dots, \xi_n, A)$ とおくと、

$i \in I \ \& \ \forall \delta \in D (y_\delta: P_\alpha(i)\text{-name})$

となる。そこで、 $P_\alpha(i)$ -name X を、

$$\Vdash_{P_\alpha(i)} "X = \lambda y_\delta; \delta \in D\{"$$

と定めれば、 $\Vdash_{P_\alpha(i)} "X \in P_\alpha(i)"$ となるから、 $P_{\alpha+1}(i)$ -name C で、

$$\Vdash_{P_{\alpha+1}(i)} "C \subset w \wedge C \neq \emptyset \wedge \forall x \in X (C \leq^* x)"$$

となるものが存在する。 D は \emptyset で cofinal だから、

$$\Vdash_P "C \subset w \wedge C \neq \emptyset \wedge \forall \delta < \emptyset (C \leq^* y_\delta)"$$

となる。これは、(2) と矛盾する。

Case 2. $k < \alpha$ のとき。

各 bijection $\varphi: \lambda \rightarrow \lambda$ に対して、 φ を canonical に拡張した
 $\{f: \exists x \subset \lambda (|x| < w \wedge f: x \rightarrow 2)\}$ 上の permutation $\hat{\varphi}$ が得ら
 れるが、それを更に、 P 上の permutation にまで拡張できる。
 この事実と、 Δ -system lemma によりこの場合は矛盾となる。